

あら い ぎ り

洗切遺跡の文字資料

洗切遺跡は八代市清水町に所在します。「八代市働く婦人の家」が建設される際、遺跡の一部が発掘調査され、奈良時代・平安時代を中心とする貴重な遺構・遺物が発見されました。

特に注目されるのが文字の書かれた土器です。「王成古」「王」「丁」などの、^{きかじん}帰化人の名前と考えられるものや、「寺」「寺杯」「六寺」など「寺」の文字が含まれるものなどがあります。また、当時の高級な焼物である奈良三彩の破片などもみられます。

これらの遺物は一般の集落では出土しないものであることから、古代の^{かんが}官衙（役所）や寺院に関連する遺跡ではないかと考えられています。

この他、^{てっさい}鉄滓や^{ふいご}鞴の^{はぐち}羽口など鉄器生産に関わる遺物、馬具なども出土しています。



「王成古」



「宣仲」



「六寺」

「王成古」は墨書、「六寺」や「宣仲」は刻書されています。刻書は土器の製作中に刻まれたもの、墨書は土器ができあがった後、使用地または製作地で書かれたものです。

八代市内では宮地町周辺で大量の刻書土器が出土するとともに、硯などの文字を書くのに必要な道具が出土しています。文字の読み書きができる人がいたことを示す遺物です。

